



株主・投資家のみなさまへ  
**第35期 事業報告書**  
平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

**RAD** 日本ラット株式会社

本社：東京都新宿区四谷4-16-3  
TEL: 03-5919-3001 FAX: 03-5919-3310  
<http://www.nippon-rad.co.jp/>

**RAD**  
RESEARCH AND DEVELOPMENT

日本ラット株式会社  
証券コード／4736



# 株主・投資家のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜りまして、厚く御礼申し上げます。第35期の事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに第35期の連結業績をご報告いたします。

連結売上高は、子会社の受注案件の翌期へのずれ込みなどがあり、42億58百万円と前期比2.3%の増加にござりました。経常利益につきましては、プロジェクト管理の徹底による原価率の改善などにより、1億21百万円と238.8%の大幅増加となりました。当期純利益は、不動産処分による法人税等の負担軽減などがあり、1億80百万円（前年は2億72百万円の損失）となりました。

第36期の見通しにつきましては、わが国経済は原油価格の高騰や金利の上昇などの影響が懸念されますが、引き続き緩やかな回復が継続すると思われます。情報サービス業界においては、企業のIT投資需要が堅調に推移するものと予想しております。しかしながら、お客様のコストパフォーマンスに対する要求の高まり、受注競争の激化、更にはSE人員の逼迫など難しい経営環境が続くものと予想しております。

このような状況ではありますが、高付加価値のビジネスを中核に据えるべく幾多のアプローチを行っております。コアビジネスのソフトウェア開発事業においては、高付加価値のサービス提供を業務のベースとするとともに、品質向上による顧客満足度の向上を図って参る所存です。きめ細かいプロジェクト管理を実施することで、お客様にご満足いただける結果を得ると同時に、採算の悪化を防止してまいります。今後の成長と高収益体质への転換を担うプロダクト販売事業拡大の一環として、株式会社CDMJの支援および追加投資や、海外ソフトウェア製品およびサービスの日本市場への新規投入など先行投資を予定しております。これにより、第36期の連結経常利益については若干伸び悩むものと思われますが、長期的な収益基盤の強化に役立つものと確信しております。

当社いたしましては、企業価値向上を目標に確かな収益構造の確立に向け、役職員一丸となって邁進する所存であります。

株主の皆様におきましては、変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

代表取締役会長

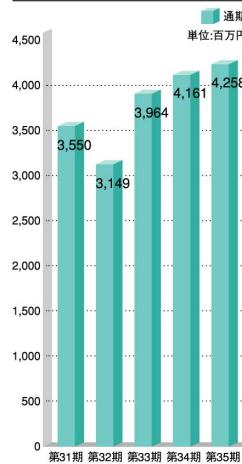
**大塚 隆一**

代表取締役社長

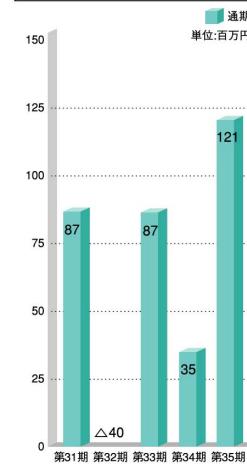
**大和 喜一**

## 財務ハイライト（連結）

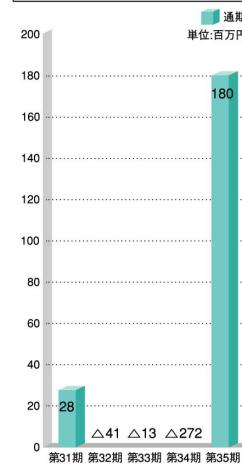
### 売上高



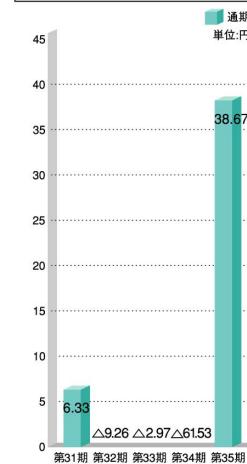
### 経常利益



### 当期純利益



### 1株当たり当期純利益



●グラフは目安であり、見やすく表示しておりますので、ご了承ください。



# トピックス

Annual Report 2006

## 情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）認証取得

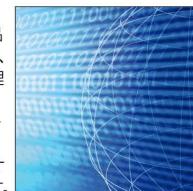
当社の間接部門と、子会社の日本ラッド情報システム（株）が、2006年3月にISMS認証を取得しました。ISMSとは、個別に技術的なセキュリティ対策を行うだけでなく、組織全体に渡って情報セキュリティ管理体制を構築・監査し、リスクマネジメントを実施する枠組みです。情報漏洩などの事件の多発によって、企業の情報管理に対する関心が高まっている中で、競争の優位性や他社との差別化につながるものとなります。今後も未取得部門の認証取得に向けて活動を進めていく予定です。



## 新規事業開拓「株式会社CDMJ」を設立

当社は新規事業を開拓すべく、子会社「株式会社CDMJ」を設立いたしました。  
【事業内容】

- セキュア・データマネジメントサービス事業  
個人情報をはじめ、大切な情報をグループ独自の「割符技術」で分割・無意味化し、3つの異なるIDCに分散してお預かりするサービスです。
- 通話録音・原本保管サービス事業  
トラブル回避/コンプライアンス/品質管理に欠かせない「通話録音」を、CDMJセンター側で行い、安全に管理します。
- コールセンター・オンデマンドサービス事業  
コールセンターの通信・情報基盤をオンラインデマンド(ASP)でご提供いたします。



## Business Intelligenceツール「TM1 Ver.9.0」をリリース

日本版SOX法の施行を2007年に控え、Applix社はTM1 Ver.9.0をリリースしました。このバージョンは、業界最速のOLAPエンジンをベースに、CPMをより効果的にご利用頂くためにBusiness Intelligence機能を強化しました。従来のExcelインターフェースに加え、Web機能を強化、ブラウザ経由で予算編成、実績分析、レポートティングなどを可能にし、ダッシュボードとしてもご利用頂けます。当社では、Ver.9.0の日本語版を7月末リリースに向けて準備しています。また、2006年5月16日、日経BP主催のBI/CPMフォーラムでVer.9.0のデモンストレーションを実施いたしました。今後もBI/CPMマーケットの開拓と販売力強化を行ってまいります。

\*CPM:Corporate Performance Management  
(企業パフォーマンス管理、BPMという場合もある)



## ホテル向け自動精算システムの開発

ビジネスシステム第一事業部では、(株)PFU様で販売している「MEDIA STAFF VC」（ホテル向け自動精算機）のシステムを開発しています。銀行のATMのような快適さで、チェックイン/アウトや精算が行え、お支払いは現金とクレジットのどちらでも対応可能です。多言語対応のガイダンス機能があり、海外のお客様でも利用できます。ホテルのフロント業務省力化によるロードコスト・オペレーションを実現します。運用側・利用側の両方にメリットのある開発を今後も続けてまいります。



## クレジット決済端末支援アプリケーション開発

千葉技術センターでは、クレジット決済端末の工場出荷における支援アプリケーションや決済端末内の保守系支援組込みアプリケーションの開発を行っています。顧客専用の情報設定の効率化やセキュリティ面の強化、情報入力や変更等、操作のし易さを追求し、時間やコストの削減に貢献できるよう考え、また、メンテナンス運用の向上を図る事も目的とし、縁の下の力持ち的な役割を担えるよう取り組んでいます。



## デジカメ+2次元バーコード画像アルバム

これまで、花の映像オークションに使用する写真は、撮影指示リストと花に貼られたラベルを確認しながら撮影し、その後専門知識を持った人が撮影リストと写真を見比べて仕分けや編集を行っていた、人手と時間を要する作業でした。

ビジネスシステム第二事業部では、花の撮影時に2次元バーコードと花を合わせて撮影することで、写真を自動で仕分けし、編集や整理も自動で行うシステムを開発しました。これによって、花の撮影作業の簡素化と、仕分編集コストの削減を同時に実現する事で、大幅な業務改善を実現しました。





## トピックス

### 生鮮発注システム「せんどねっと」ASPサービス開始

日本ラッド情報システム（株）は、インターネットEDIメーカーであるニュートラル社（本社：札幌市）と提携し、生鮮食品の入荷予定情報・発注情報・納入情報などを小売業本部・店舗・仕入先に共有させ、「業務の効率化」と「大幅なコストダウン」を実現できる画期的なシステム「せんどねっと」のASPサービスを開始しました。「せんどねっと」は、本部・店舗・仕入先のいずれもインターネットに接続しているパソコンさえあれば利用でき、これまで生鮮部門のシステム化が困難であった中小規模のスーパーマーケットでも生鮮発注が低コストで実現できるようになりました。



### 省エネ・エコドライブに貢献

モバイルリンク（株）では、物流2法改正に伴いデジタルタコグラフを使用したシステムの開発及び販売に力を注いでまいりました。2006年3月27日に、EMS（エコドライブ管理システム）導入支援となる「エコドライブ普及事業」の参加申請受付が開始されたのを受けて、今まで買い控えていた会社様からも導入のご注文をいただくことができました。この波にのり、受注案件の増、営業・サポート拠点の増設と販売代理店の拡大、受注から納品までのレスポンス向上とサポートの充実など、引き続き同業他社との差別化を図ってまいります。



### TPMを組込アプリケーションへ

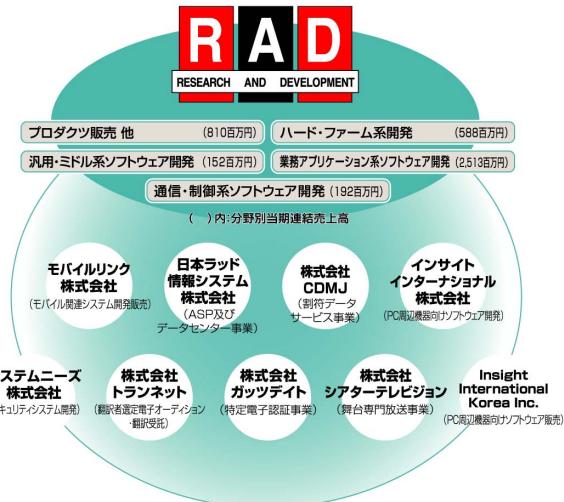
インサイト・インターナショナル（株）では、より安全なコンピュータ利用のための次世代規格として注目を集めているTPMについて、様々な展開を行っています。このTPM技術は、全く新しい考えに基づいて開発された技術で、すでにたくさんのコンピュータに搭載されています。当子会社では、コンピュータ用途向けて米国WaveSystems社のTPMソフトウェアの販売および顧客サポートサービスを提供する一方で、一般家電製品、携帯電話やPOS端末などへのソフトウェアの独自開発、販売を行っております。TPMソリューションの需要は今後急激な成長が見込まれており、「TPMアプリケーション」といえばインサイトを目指し、今年も引き続き活動を行って参ります。

\*TPM:信頼できるコンピュータを実現するための、端末側の信頼基盤。



インサイト・インターナショナル（株）は、2005年12月にTCGに加盟しました。

## インテグレーション&シナジー



インターネットの普及、ネットワークサービスへの企業資本の投入、企業内でのインターネット整備に伴い、一般社会とソフトウェア開発との関わりは緊密度が飛躍的に増大しました。それに伴い、当社とお客様との関わりも、これまでのバックオフィスシステムを通じて間接的にお役に立つという関わりから、一般のお客様がビジネスや日常生活で直接お使いになるシステムを提供するようになってまいりました。その結果、一般のお客様が直接目にする事のない汎用・ミドル系ソフト開発や、その存在を認識することの無いハード・ファームウェア系のシステム開発を、コストパフォーマンス良く行っていく業務だけでなく、開発スピードを要求されるマーケット最前線に適応できるシステムの導入・提供が増加してきております。また、当社で開発した製品・コンセプトをベースに、国内外のパートナーから調達したソフト・ハードを加えたソリューションを提供するビジネスも、当社のビジネスとして重要な部分を占めています。

先端分野では、知的財産権保護を主眼とする時刻認証システム、バイオメトリックス、ネットワークセキュリティ、地理情報、地図描画、移動体把握、計算流体力学などの技術を中心としたビジネス開拓・製品提供を行っています。今期は新たに、情報の漏洩保護に配慮したデジタルアーカイブ事業に着手いたしました。また、このような技術を実証・提供するための場として、インターネット・データセンターを運営し、お客様と共に前進するASP事業を目指して活動しています。

このような多岐にわたる分野において当社グループは活動を続けており、新しい技術に対する挑戦の精神と、これまで培ってきた経験を活かした安全なシステム提供を目指して、積極的な姿勢で業容の拡大に取り組んでいます。